

鳴き石が転がる

学生時代柔道部に入っていた。その練習は過酷を極め毎日が精も根も尽き果て、体力の限界までの挑戦であった。体を鍛える練習方法には沢山あるが、なかでもランニングは欠かせない。多少のアップダウンならともかく、砂浜でのランニングとなるとわけが違う。体重の重みで足が砂に埋もれそれを抜くにも一苦勞。砂に足が取られうまく前に進まない。

島国日本の海岸線にはいたる所で砂浜を見かける。格好の練習場所ではあるが、なかでも砂地を歩くと不思議な音がする「鳴き砂」に出逢ったことがある。石英粒を多く含む砂の上を歩くと「ギュッギュッ」と摩擦で泣いているように聞こえるのだ。

冬へ近づこうとするこの季節。日本海は所により風と波により大しけとなる。まるで台風のようにでもある。それが毎日続く。ここ鳥取県・大山に接する日本海に琴浦町から大山町にかけて、護岸工事が施されず自然のままに残されている場所がある。通称「鳴り石の浜」である。海岸線一面には大小さまざまな見事な丸い形をした石が積み重なっている。よく見ると大きな波が引くときに石を引きずり込み、また打ち寄せる時にも石を転がして打ち上げている。その時に石同士が擦れ合い「ゴロゴロゴロ」と重たくも心地良い音色を響かせる珍しい海岸である。どの石を見てもまん丸で角が取れている。長い年月をかけての作業はすべての石を丸くする。人生も年齢を重ねるにしたがって性格も丸くなるようなものだ。

私も更に人間を磨き角が取れた円熟した人生でなければと反省する毎日。

2014 年秋

